

2006 年度

# 活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

## 2006年度 日本カトリック信徒宣教者会 活動報告

### 1. 概要

1981年の創立から25年を迎えた今年度は、いままでの活動を振り返るとともに、これまで活動を支えてくださったすべての方々に感謝をささげることを目的として「JLMM 創立 25 周年」記念式典を開催した。あわせて創立 25 周年を記念し、式典に向け、これまでの活動をまとめた「JLMM25 年の歩み」を発行した。

今年度は、3名の派遣候補者を迎え、例年通り研修を実施した。うち2名をそれぞれカンボジア、タイへ派遣した。派遣候補者研修では、昨年に引き続き日本女子修道会総長管区長会「生涯養成コース」などの外部の授業に積極的に参加するほか、多くの講師による研修や課外授業を行った。また海外長期研修はタイとカンボジアの現在派遣を行っている派遣地に赴き、活動の実際を見て体験できる研修を行った。

活動地タイでは、首相交代による在タイ外国人に対する方針の変更などによりビザ取得が困難となり、1ヶ月半ほどマレーシアで待機するという障害があったが、現地協働スタッフの多大な協力のもと解決し、活動を再開することができた。

カンボジアでは、コンポルアン水上教会・識字教室改築費用を日本の支援者に広く依頼し、目標額を達成することが出来、無事改築を行うことができた。ステンミエンチャイ地区においては、ゴミ集積場閉鎖に向け、屋台プロジェクトなど新しい取り組みを始めた。

東ティモールでは5月頃国内情勢が不安定になり、日本に一時避難する事態が発生したが、9月には再び現地へ赴き活動することが出来た。

国内活動では、前述の 25 周年記念式典にあわせ、関係者や元派遣者をはじめとした、呼びかけに応じてくださった方々によるゴスペルクワイヤーを結成し、ゴスペルコンサートを行った。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2007年3月31日現在の派遣国と派遣者

カンボジア…4名、タイ…2名、東ティモール…1名

計 3ヶ国 7名

2007年3月31日現在の会員数 2,755 (個人・団体)

内訳

個人…1,319、教会…339、修道会…791、学校…178、その他…128

## 2. 各国活動

### (1) カンボジア

1992年4月より復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教師の派遣が開始された。バタンバン州にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン・コンポンスプー州では、試験農場、幼稚園支援、カンボジア人による NGO を通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998年1月からはカリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバタンバン知牧区内プルサート州コンポルアンの水上村における関わりを展開している。

2002年度より浅野美幸（横浜教区）、2003年度より平西紀（鹿児島教区）、2004年度より杉村太郎（大阪教区）、2005年度より高橋真也（新潟教区）、2006年度は重富浩子（大阪教区）を派遣した。

重富は2006年12月より6ヶ月の語学研修開始。平は2006年6月任期を終えて帰国した。

2006年度は、プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野と杉村が担当し、トンレサップ湖上の村コンポルアンの活動を平と高橋が担当した。

## 主な活動

### I ステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

#### 1. 対象地域と地域概要

##### プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区ごみ集積場に隣接しているルッセイ村。主にごみ集積場内での有価物回収作業を主な収入源として暮らしている家族 115 世帯を対象としている。

ステンミエンチャイ地区ごみ集積場は 1965 年からプノンペン市内のごみが分別されることなく集められている。それらのごみの中からリサイクルが可能な有価物を集めリサイクル業者に売ることによって生計を立てている家族が多く住んでいる。彼らの中には学校に行かずに働いている子ども、学校に行きながら働いている子どもがいる。十分な医療、教育を受けるのが困難な地域であり周辺住民の家の中は不衛生である。それ故、多くの NGO が活動を展開している。

#### 2. 活動概要

1998年1月からカリタス・カンボジアとの協働により活動を開始。2002年12月カリタス・カンボジア撤退後 JLMM カンボジアが継続して活動を実施している。

2002年に貧困や家庭の事情で小学校に入学していない子ども、小学校退学、落第、授業についていくことが出来ない児童が多い地域での基礎的社会能力や知的能力を学び取れる経験の場として活動を実施展開。プテア・コマ「子どもの家」活動(プテア・コマ I、II)を開始、2005年2月より地域を縮小し発達年齢に分けて「大きな子どもの家」「小さな子どもの家」を開始(週4日)。住民の希望により2005年10月から週5日の活動とした。

衛生環境が劣悪なため清潔を保つことが困難な上に十分な医療を受けられない場合もある。それらを鑑みプテア・コマ活動と合わせて周辺住民を対象とした衛生教育活動も実施。カンボジア人スタッフ2名の他に子どもの家の先生2名、ヘルパー2名を雇い活動を実施。

## 1) プテア・コマ (子どもの家)

2005年度から引き続き活動を実施。「小さな子どもの家」の老朽化が進み子どもの人数に見合った広さを確保できなくなったため、新たな土地を用意し、「小さな子どもの家」を新設することになった。また「大きな子どもの家」の大家が家の建て替えのため新たな場所を確保し「大きな子どもの家」の活動を開始。

### a) プテア・コマ トム (大きな子どもの家)

対象年齢:クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童対象。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00	歌	歌	歌	歌	クメール ダンス
9:15	道徳のお話	お話	衛生のお話	お話	
9:20	クメール語	クメール文字	クメール文字	クメール文字	
10:00	数字	図工	体操/音楽	お絵かき	
10:30	塗り絵	自由遊び	塗り絵	自由遊び	クメール 文字
10:50	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	
11:00	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム

### b) プテア・コマ トイ (小さな子どもの家)

対象年齢:クメール語子音の読み書きが出来ない3歳から就学前の幼児対象。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:00	歌	歌	歌	歌	歌
9:15	お話	道徳のお話	お話	衛生のお話	クメール 文字
9:20	クメール文字	クメール文字	クメール文字	クメール文字	
10:00	図工	数字	お絵かき	体操/音楽	
10:30	自由遊び	塗り絵	自由遊び	塗り絵	クメール
10:50	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	絵本読み聞かせ	ダンス
11:00	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム	豆乳プログラム

## 2) 豆乳プログラム

栄養価の高い食品を継続して摂取するのが困難な地域にあり、子どもたちは実年齢より幼く見える。健康を維持するためにも栄養のある食品を摂取することは重要であるためプテア・コマにおいて一日の終わりに子ども一人ひとりにコップ一杯分の豆乳を提供した。また幼すぎてプテア・コマに来ていない乳幼児に対しても豆乳を安く販売した。病気で十分な栄養を摂取出来ない村人には豆乳ペットボトル1本を無料で提供した。

### 3) プライマリ・ヘルスケア・サービス／家庭訪問

ゴミ集積場内はゴミが分別されることなく捨てられるため、辺りにはビンのかけらが散乱し、その中で働く彼らは切り傷、皮膚疾患が絶えない。また村内においても道端や家の周囲にゴミが散乱している。

家には医薬品が無いため、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと指導を行った。プテア・コマに来る子どもたちへ傷の手当てを行い、村内を巡回し村人の傷の手当てを行う。乾季になるとゴミを燃やす煙が村にも流れ込み、頭痛や呼吸器関係の病気を引き起こす。風邪の予防法のアドバイス、病院紹介、病院までの交通費の援助、また問題を抱える家族には緊急援助を行った。

### 4) 石鹼キャンペーン

劣悪な環境状態のゴミ集積場に通い生活をしている人たちは、生活・衛生環境不良のため皮膚疾患が多く見られる。貧困家族 115 世帯に月 2 回、石鹼を低価格で販売。虱対策の石鹼、皮膚疾患対策石鹼、蚊除け石鹼の販売もあわせて行った。2007 年 3 月からは洗濯石鹼の販売も開始。

### 5) 女性グループ

家庭の生活状況を改善していく役割を担っている女性たちと共に、自ら健康・生活状況向上のためのグループ作りを行う。教育の大切さ、小学校の入学手続き、PSE（フランスの NGO）への奨学金申請の仕方などの指導も行った。ステンミエンチャイ共同組合設立のための家庭訪問を実施した。

### 6) ステンミエンチャイ共同組合

ゴミ集積場が 2009 年に閉鎖されるにあたり、現在ゴミ集積場で生計を立てている住民にとって、新たな収入源確保が緊急の課題になっており、少額の資金で開始でき、かつ対象地の環境・文化的にも着手しやすい屋台事業、お菓子生産販売事業、そして相互扶助グループにより生活の安定を図っていくことを目的とし協同組合設立を目指している。また、共同組合を設立することにより、参加住民の意識の向上、相互の助け合いや連帯感を促進していく。

現在、51 名の会員が加盟。クレープ、ヨーグルト、プリン、クッキー、ケーキなどの屋台及び徒歩での販売を予定。販売する商品をお菓子の絞り、仕入れなど協同組合で一括購入しコストを抑え、市場、学校、縫製工場など人の流れが集中する場所を拠点に出店販売し、売上げを伸ばしていく。屋台プロジェクトが軌道に乗り収入が向上すれば、家計の中から治療費や疾患予防に対する支出が可能になり、健康や生活の改善が期待できる。また生活が安定してくれば、親も子どもを学校に行かせるようになり、子どもはゴミを拾うことなく学校で学べるようになる。彼らが劣悪な環境状況のゴミ集積場から解放され、自立に向けての第一歩になればと願っている。

### 7) その他

- a) プテア・コマにおいてクメール正月のお祝いを行なう。(4/10)
- b) カリタス・カンボジアの職業訓練校で美容技術を学んでいる学生たちをプテア・コマに招き、月に一回無料体験美容院を開く。(5月～10月)
- c) プテア・コマにおいて卒業式を行う。(9/15)
- d) プテア・コマにおいて先生たちの研修会を実施(9/25～29)

- e) オリビエ神父が運営する学生寮の男子大学生ボランティアによるプテア・コマでのクリスマス会を開催。(12/15)
- f) Sr. 東盛 (シヨファイユの幼きイエズス修道会) の指導による幼稚園の先生のための研修会に参加
  - ・ 2006/5/22～23 プサートーチ教会
  - ・ 2006/9/28～31 コンボンソム教会
  - ・ 2007/3/23～24 プサートーチ教会
- g) 「横浜教区カトリック菊名教会基金」の運用と決算報告
- h) 「日本外国語専門学校チャリティーコンサート」の収益金の運用と決算報告
- i) ドイツ「Die Sternsinger」からの助成金、子どもの家での運用と決算報告 (2006年5月～)
- j) 「フェリシモ地球村の基金」、屋台事業での運用 (2007年1月～)
- k) カンボジア開発評議会に提出する書類作成
- l) TBS「1秒の世界」によるプテア・コマの取材(11/8)

## II プルサート州水上村コンボンルアン 生活向上支援

### 1. 対象地域と地域概要

#### プルサート州水上村コンボンルアン

水上村コンボンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では1,600世帯以上の人々が船の上で生活しており、約70%がベトナム人、その他はクメール人とチャム族の人々である。人口は全体で6,000人を超える。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。水上村は電気、ガス、水道はなく、人々は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て湖に廃棄しているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はクメール語(カンボジア語)が話せないために公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。そのため医療機関へかかることができず、病気を悪化させそのまま死に至るケースも多い。子どもの場合、言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題も抱えている。

2001年からバツタンバン教区、JLMMカンボジアと住民の協力の元、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2006年6月より高橋がプロジェクトアシスタント1名と共に活動している。

2002年度に設置された横浜教区カトリック藤沢教会「カンボジア福祉基金藤沢」から引き続き原資の増資を受けた。

### 2. 活動概要

#### 1) 保健衛生プログラム

##### ①水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続実施した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも実施した。水浴びプログラムに通う子ども達の湿疹や虱などの症状は、昨年より少なくなっている。また、JLMMカンボジアで準備している湿疹

用石鹼、虱用石鹼を自ら買い求め日常的に使用するようになってきた。参加者は季節によって異なるが、平均して30人程度。住民や母親、若者の参加・協力もあり村人の健康や衛生に対する意識が徐々に向上している。

## ②病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援を継続実施した。ただし軽症のケースに対しては栄養や処置に関する指導を行い、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。また、2007年1月からは、水上村教会内の病人支援グループに活動を委ね、交通費支援も教会側の負担となった。引き続き病人訪問、簡単な薬の支援などを行った。病院に搬送した病人は、喘息、難産、腸チフス、肝硬変、癌、結核、精神病など様々であった。病人支援数39名、47件。

支援内容は受診に伴う薬代、食費、諸経費の支援、緊急食糧援助、病院への同行や手続き、見舞い活動、相談活動など。

## ③ホームケアプログラム

病人の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支給支援を実施。また本人や家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

## 2) 母子保健に関する活動

2006年度は、産後の母親と乳児を訪問し、相談・指導活動を中心とした訪問活動を行った。粉ミルク支援は原則として行わず、母乳不足の場合は母親への栄養指導と食費援助を行った。母親が病気の場合などに限り、粉ミルクを支援した。

## 3) 識字教育プログラム

2006年3月～6月まで、識字教室の先生1人を幼稚園の先生を対象としたトレーニングに派遣(ブノンペンのドンボスコ)。しかしトレーニング終了後、先生は戻ることなく辞めてしまい、もう一人の先生も併せて退職となった。6月からはヘルパーとして関わっていた女性が先生として教え始め、現在に至っている(この先生が産休の間、1人女性が先生を代行)。

先生の交代に併せて、識字教室のカリキュラムも変更。先生のレベルに合わせたカリキュラムの準備に努めた。教材の支援や先生の研修費の支援を実施した。

2005年度から「日本カトリック海外宣教者を支援する会」の支援により購入した通学船で、公立小学校への子どもの送り迎えを始め、大きな成果を挙げている。2006年10月の新学期に31名の生徒を識字教室から公立小学校へ送り出し、現在も大多数の生徒は継続して通学している。保護者と子どもを交えた、通学船使用についての説明などを含めたミーティングを年に4回実施。生徒に何か問題があった場合、家庭訪問や公立小学校訪問を行った。

また、2007年3月より、水上教室に通ってくる生徒の送迎を開始した。船の購入代金は横浜教区カトリック由比ガ浜教会、維持費は「日本カトリック海外宣教者を支援する会」からの支援金より支出。この送迎船によって水上教室も、子どもたちが継続して通えるようになった。

## 4) 家庭訪問調査

家庭訪問調査は、乾期の間、船の家の移動が多く、訪問が困難であったため一時休止し、2007年

4月より再開を予定している。

#### 5) 栄養改善プログラム

2005年2月より始めた栄養改善プログラムを現在も継続して実施。栄養価の高い食事を提供し合わせて栄養指導を行った。子どもには豆乳を、病人、授乳期の母親、老人に対してはボボー（野菜入りおかゆ）の配給を行った。栄養プログラムは定着し、子どもたちは野菜の名前を覚えたり、老人たちにとってはプログラムの時に集まることで交流の場になったりと、様々な良い影響が現れた。水浴びプログラムと共に週に1回実施。

#### 6) 青年活動

2005年度より開始したクレジットプログラムを現在も継続実施。しかし返済率の向上が今後の課題である。実質的な青年グループは昨年度でなくなり、現在はイベント時(2006年8月29日～31日バタンバン教区青年ミーティングに参加)に集まるだけに留まっている。

#### 7) 奨学金

2006年度は7名の学生に対し奨学金を支給。うち2名はコンポルアン教会識字教室で勉強するために遠方からきた子どもへの生活費のための奨学金。1名はバタンバンで縫製を学ぶコンポルアンの青年の生活費・教材費のための奨学金。3名はバタンバンで刺繍を学ぶコンポルアンの青年（2名はコンポルアンより更に離れた水上村）の生活費・教材費のための奨学金。1名はコンポルアンから陸地の高校へと通うことになった青年への教材代として支給。

今後どういった生徒に奨学金を出していくか、更に検討を重ねていく。

#### 8) 公立小学校支援

公立小学校との連携を深めるため、また教育省からの活動に対する同意を今後も円滑に取れるようにするために、2006年度は初めて公立小学校への支援を行った。総額で1,000ドル分の竹（水上学校に浮力を与えるためのもの）の支援を7月に行った。

#### 9) 教会及び識字教室改築支援

老朽化した水上村教会及び隣接する識字教室の改築資金を支援するため、日本の教会を中心に募金活動を実施（2006年3月～6月）。それにより、20,000ドルをバタンバン教区へと支援した。教会の改築は2006年11月、識字教室は2007年2月にそれぞれ終了した。

#### 10) その他

- a) 平西紀任期終了(2006年6月)、高橋真也活動開始(2006年6月)
- b) カンボジア全教区でのリーダーミーティングへ参加(2006年7月11日～14日 高橋、Ra)
- c) バタンバン教区パストラルミーティングへの参加(2005年10月25日～26日 高橋、Ra)
- d) カトリック青年の集い2006 in バタンバンに参加(2006年8月 高橋、Ra)
- e) コンポルアン担当司祭との定期ミーティング
- f) 教育省、警察などをはじめとする地域機関への訪問
- g) 「日本カトリック海外宣教者を支援する会」への助成金申請の準備(2006年10月～11月)



- h) 「カンボジア福祉基金藤沢」の運用と予算・決算報告（2006年1月、2006年4月）
- i) 「今井記念基金」への助成金申請の準備（2006年12月）
- j) コンポルアン教会・識字教室改築についての募金活動（2006年3月～6月）
- k) 各教会へ向けた活動報告及び活動資金協力申請の準備（2006年8月）
- l) 人事: プロジェクトアシスタント1名（2006年6月～）
  - 識字教室先生1名（2006年7月～）
  - 識字教室ヘルパー1名（2006年10月～）
  - 通学船運転手1名（2007年3月～）
  - 退職: 識字教室ヘルパー退職（2006年12月）

### III その他、事務活動

#### 1) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学

下記の日程で JLMM 関連カンボジアスタディーツアーを受け入れた。

2006年7月15日～24日	日本女子修道会総長管区長会生涯養成コース
8月7日～14日	ニコラ・バレグループ
8月16日～22日	松本聖テレジア幼稚園職員
8月21日～31日	JLMM スタディーツアー
12月26日～1月1日	カトリック菊名教会青年
2007年2月7日～21日	専修大学 SIA サークル
2月19日～23日	山口神父、由比ガ浜教会青年1名
3月25日～30日	近畿日本ツーリスト中高生を対象としたツアー

ステンミエンチャイ：上記以外に46組のボランティア・見学・取材を受け入れた。

コンポルアン：上記以外に8名の訪問・宿泊を受け入れた

#### 2) 人事

帰国：6月26日 2003年度派遣 平西紀(鹿児島教区)任期終了

採用：6月1日 プロジェクトアシスタント、コンポルアン担当 Phen Ra

入国：12月17日 2006年度派遣 重富浩子(大阪教区)

ローカルスタッフ

Chhy Sothy (ステンミエンチャイ担当)

Phen Ra (コンポルアン担当)

#### 3) 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」「礼拝会カンボジア共同体」それぞれの活動や事務的内容等のミーティングを開催。ビザ申請支援などを行った。礼拝会のシスターが週2回、プテア・コマの活動に参加。

#### 4) ラチャナ・ハンディクラフト・バタンバンの支援

カンボジアローカル NGO「ラチャナ・ハンディクラフト・バタンバン」の商品を JLMM オフィスにて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業。カンボジア事務所における会計簿を再開。

#### 5) JLMM 海外長期研修の受け入れ

2006 年度海外長期研修のカンボジア研修にあたり研修生高橋まり子を受け入れた（7月 26 日～8月 24 日）

#### 6) 東京事務局との連絡調整

#### 7) 黙想会

6月 15 日～19 日、コンポンソムにてカンボジア派遣者全員の黙想会を行った。

#### 8) 一時帰国

杉村太郎 10月 5 日～11 月 1 日

#### 9) 報告会

10月 7 日 東京教区カトリック潮見教会  
10月 14 日 長野県松本市聖テレジア幼稚園  
10月 15 日 横浜教区カトリック松本教会  
10月 18～20 日 京都ノートルダム女学院  
10月 21 日 大阪教区司教館  
10月 22 日 大阪教区カトリック吹田教会

以上全て杉村

## (2) タイ

タイへの派遣は、2000 年度 1 年間のインターンとして、本橋奈々子（東京教区）をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれの **DISAC**（ダイサクク：**Diocesan Social Action Center**: 教区社会活動センター）に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を 2004 年 1 月 9 日正式にチェンマイ教区 DISAC へ派遣。DISAC と協働し、少数民族支援（主にカレン族）のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行う。2006 年 3 月 30 日に任期を終了した。

2005 年 2 月 17 日、日笠山万希子（2004 年度・福岡教区）を同 DISAC に派遣。2005 年 7 月までの語学研修期間を経て、少数民族のラフ族の教育支援を開始した。2007 年 3 月 20 日より松本和歌子（2006 年度・福岡教区）が新たに派遣。ラフ族活動に加わるようになった。現在、語学研修中。

## 主な活動

### I ラフ族村での活動

チェンマイ教区 DISAC の歴史は、宣教師たちが少数民族対象の活動を始めた 1931 年にまで遡るが、正式に設置されたのは 1975 年で、人的開発のための社会活動を目的としている。CCTD（タイカトリック開発協議会）に属する 1 組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在 10 教区あり、すべての教区に DISAC が設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 DISAC の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランブーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホングソーン県の北部 8 県である。

チェンマイ教区 DISAC の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族（リーダー育成グループ、米配給）、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

DISAC は現在まで 30 年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行ってきたが、2004 年度よりニッポー神父やパイロット神父中心とし、ピトゥ（DISAC・農業専門スタッフ）とナハー（ラフ族出身で村在住）と共に、ラフ族が抱えている問題について解決していくための活動を展開している。

ニッポー神父が所長を務めるチェンマイ市郊外にある RTRC(Research and Training for Religion - Cultural Community)は、少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共にセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。RTRC 内にはラフ族事務所が設置されており、日笠山と松本はここに属する。また、活動拠点地は RTRC に加え、赤ラフ族の住むポンパー村（チェンマイ県メーアイ郡）である。

主にポンパー村では、昨年からの教育支援活動の他、衛生教育、環境教育など、子どもや若者を対象とした活動を DISAC スタッフ、村在住スタッフと共に開始した。この数年間の活動の中で新たな問題点、改善点が浮上し、その中でも一方的な経済的支援だけでは村人から自立心、向上心を奪ってしまうという反省点から、これまでのスプーン・フィーディング的方法ではなく、村人が基点となる活動方法に切り替えることをスタッフと確認し、マイクロ・ファイナンスを村に取り入れる運びとなった。現在はまだ子どものみであるが、今後は、活動の対象枠を広げ、村人全体にこれらの活動を広げていくこととしている。

#### 活動概要

##### 1) ポンパー村青少年対象エクスポージャー・トリップ (4月2日～5日)

23名の小学生の子どもたちが参加。市内でのラフ族(少数民族)が置かれる現状を知ること、安易に都会への憧れを抱かないこと、村のすばらしさを見直すこと、また明確な将来設計を持ってもらうことなどを目的とした。

##### 2) ポンパー村より5名(チャチョシー村より1名)がメーサイのカトリック聖家族センターに入学(5月1日)

チェンマイから北に約20キロ行ったところにある赤ラフ族の村、ポンパー村では、初等教育以上の教育が受ける機会がほとんどない。結婚という道しか残されていない少年少女のために教育

の場を提供する活動をスタッフと共に行った。進学先はチェンライ県メーサイにある聖家族カトリックセンター（ベテラム会）で、6名の12・13歳女子の進学が決定した。

学年に応じた学力が伴っていないことから、基礎的なタイ語での読み書きをセンターで学びながら、裁縫の技術を身につけ、将来独立して生活することが出来るように手助けする。数ヵ月後に隣村出身の少女1人が退学したが、他の5名は現在も籍を置いている。

### 3) 子どもたちと面会（5月、6月、7月、10月）

毎月のビザ申請のため国外出国にあわせ、カトリック聖家族センターを訪問。進学した子どもたちと話をするなど、子ども達の心のケアを行った。

### 4) ポンパー村にて植林活動（5月18日）

村には木がないため、雨季に入ると水がたまり、不衛生になる。また、家庭によっては果物を購入することが難しい家庭もあることから、果物の苗木（レモン、ジャックフルーツ、マンゴー）を購入し、村で植林を行った。中には枯れてしまったものもあるが、各家庭がそれぞれの木を世話している。

### 5) ポンパー村女性たちとメーサイ聖家族カトリックセンターで縫製トレーニングに向けた話し合い（3月8日）

農閑期など空いている時間を利用して女性たちの中には裁縫をする者がいる。赤ラフ族が身につけている伝統的衣装などの保存と技術向上、またそれを聖家族カトリックセンターなど村以外での販売を行った。これにより、収入源が限られている村で労働の選択枠を女性にも広げていきたい。将来は、女性やその家族だけでなく、村全体の益となるような活動に発展させたい。

### 6) タイ政府学校協力による清掃活動開始

村では、ゴミが処理されることなくいたるところに廃棄されていることから、衛生的な環境をつくりだすため、清掃活動を行った。学校の協力を得ることでより効果的な活動が期待されることから、村在住のタイ人教師に依頼し、朝から生徒たちが指定のエリアの清掃を行っている。

### 7) 1日1パーツ貯金活動の実施

2005年度に緊急教育支援を開始し、これによって6名の子どもたちの進学が可能となった。しかし、JLMMが全額支援を行うことは彼らの独立心や尊厳を損なうことが分かったため、JLMMはこれから経済支援以外のサポートを行うことが好ましいことをDISACスタッフと確認した。

これによって貯金活動を導入することとした。最終的に村全体でやっていく前にまずは子どもたちの間に取り入れ、2007年度は子どもたちのレクレーション活動費、そして2008年度以降には教育費に当てていくことを計画している。

### 8) 政府学校の英語授業の補助

英語よりもタイ語が子どもたちにとって必要不可欠であることは間違いないが、タイの学校で必修科目である英語に少しでも慣れ親しみ、英語の授業を通して見えてくるものもあることを気付いてもらいたいという思いから、村の政府学校の授業と調整の上、英語を教えた。

## 9) 青少年少女によるレクリエーション活動を開始

ラフ語が中心の生活の中で、タイ語でふれあう機会を増やし、若者の連帯感、創造性、感受性を深めることを目的とし、青少年少女によるレクリエーション活動を行った。これまでに授業のあい間などを利用し、グループごとにタイ語での出し物（歌や踊り）などを練習。村人やタイ人教師を招き、大人たちの前で発表会を1回行った。日ごろはテレビを囲んで夜を過ごす村人の多くがこの発表会を鑑賞、笑いと拍手で村は一杯になった。

## II RTRC 関係活動

1) ラフ族青少年少女対象自己開発プログラム（3月29日～4月1日）

2) カトリック系 NGO、団体などとの協働

A) FIMARC (Federation Internationale des Mouvements d' Adultes Ruraux Catholiques)

ベルギーに本部のあるカトリックの団体。地域社会で働く農業従事者のネットワーク組織で、欧州、アジア諸国で活動を行う。この団体と、ヨーロッパ、アジアで農業や若者が直面する問題についてなど意見交換を行った。

B) フランスの NGO 調査同行（6月）

アジアの子どもたちに教育の機会を与えることを主な活動としているフランスの NGO の依頼を受け、チェンマイでの支援先調査を行った。調査の結果、チェンダオの学校が支援先に決定し、赤ラフ族の村への訪問調査にパイロット神父と共に同行した。

C) MISERIOR と DISAC との意見交換（10月30日）

DISAC がドイツのカトリック教会開発支援組織「MISERIOR」にプロジェクト申請を行ったことから、MISERIOR の現地スタッフと DISAC によるプロジェクト説明、意見交換が RTRC にて行われ、これに参加した。

長年にわたる DISAC の人々との関わりなどについて知る機会となった。

d) Kid's Home のスタッフと面談（11月）

少数民族の子ども達、その中でも過酷な状況に置かれている子ども達のための宿泊施設を運営しているイタリアの NGO 「Kid's Home」と、今後 JLMM がどのように協力して働いていけるかなど話し合いを行った。

e) シンガポールカトリック信徒 (Mission Awareness Group) との交流（2月5日～8日）

シンガポールカトリック信徒 (Mission Awareness Group) がプログラム視察のため、チェンマイを滞在した際、信徒としての福音宣教について意見交換を行った。また、シンガポールや日本が共に抱える問題について分かち合い、これから共に何が出来るかなど話し合った。

f) マレーシアからの有機農業視察に同行（2月23日～27日）

有機農業を行う地元タイ人農家を訪れた。

g) German Radio ARD の取材に同行（3月）

ドイツ人記者による、チェンマイ教区におけるライスメリット活動（「お米」を通じたコミュニティ開発活動）取材に同行した。

長年チェンマイ教区が取り組む同活動が、現在もどのように若者に浸透しているかということを取材。ニッポー神父の案内でカレン族村を訪問した。

### Ⅲ チェンマイ教区および教区社会活動センター (DISAC) 関係

アジア宣教大会準備、および会議参加 (10月18日～22日)

DISAC 主催人身売買撲滅のためのセミナーに参加 (3月15日、16日)

### Ⅳ その他の活動

- 1) YPD (Young People for Development) 会議に DISAC スタッフと共に参加。  
YPD 主催カレン学生トレーニング・プログラム (4月9日～17日)  
YPD 主催ビルマ教員対象トレーニング・プログラム参加 (5月22日～29日)  
YPD マレーシア会議参加 (7月29日から8月12日)
- 2) 英会話レッスン (5月)  
DISAC スタッフ家族を対象に英会話レッスンを行った。
- 3) 研修生受け入れ (7月26日～8月19日)  
JLMM 派遣候補者2名の長期海外研修の受け入れを行った。
- 4) スタディーツアー (8月22日～25日と2月15日～21日)  
JLMM 夏のスタディーツアー (8月)、専修大学 SIA のスタディーツアー (2月) を行った。
- 5) 佐賀国際交流協会主催タイ視察参加者にラフ族に関する講話 (8月19日)  
赤ラフ族の置かれる現状と JLMM の活動について講話を行った。
- 6) カトリック女子高校進学セミナー内での日本食コーナーの準備、担当 (11月1日、3日)  
ドリームチーム (退職され老後をチェンマイで暮らす日本人の会) の方々と共に日本食コーナーを担当した。
- 7) マレーシアに滞在 (12月22日～2月1日)  
ビザ申請書類が発給されるまでの間、マレーシアに滞在した。  
有機農業を営む友人の下農場で起居し、HIV/AIDS ホーム、ビルマ (ミャンマー) からのけが人や重病人のための施設、有機農業従事者ネットワークなどに関わる機会に恵まれた。これによって、視野を広げ、貴重な学びがあり、これからの活動の糧となる重要な体験となった。
- 8) 「アジアの風」受け入れ  
日本から訪れたスタディーツアー「アジアの風」参加者のために、聖家族カトリックセンターから商品の買い付けを行った。

### **(3) 東ティモール民主共和国**

1999年に発足した東ティモール東部ラウテム県ロスパロス郡トリスラ地区でプライマリヘルスケアの普及啓発活動を行う現地国際 NGO「東ティモール医療友の会 (AFMET)」に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2006年1月3日、佐藤邦子 (名古屋教区) をコーディネーターとして派遣した。2006年5月には東ティモール国内において騒乱があり、外務省から避難勧告が通達され、日本へ一時帰国するという事態となった。

2006年9月末、東ティモール国内がある程度落ち着きを取り戻したため、再度派遣し、活動を開始した。

## 主な活動

### I コミュニティ・ヘルスワーカー（CHW）の活動の活性化

#### (1) CHW による村でのセミナーの開催促進と実績

CHW による村民対象のセミナーの開催を促進し、多くの村落でセミナーが実施された。本年度はセミナーの実施回数が減少している村落のデータを取り、その地域を重点として開催促進を行った。

表1 CHW による村落でのセミナー実績

年月	グループ名									
	第1-2グループ		第3グループ		第4グループ		第5グループ		第6グループ	
	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数	セミナー回数	参加者数
2006.4	3	56	1	30	1	32				
5										
6	2	80	3	237	2	81				
7							16	241		
8	5	66	2	120						
9					1	30	2	92		
10							4	84	1	19
11							1	38		
12					1	37			1	13
2007.1	2	63					1	28		
2							1	37		
3	2	45					2	55		
合計	14	310	6	387	5	180	27	575	2	32

#### (2) 患者訪問と救急搬送

本年度は、5月のインターナショナルスタッフの一時国外退去も伴い、リフェラル件数が全体的に減少した。また、国立病院にて救急車が常備されたため、AFMET による救急患者の搬送件数が減少した。

表2 患者訪問と救急搬送実績

年月	マラリア	下痢	熱	出産	怪我	事故	その他	合計
06.04~06	1			7	3		2	13
07~09	2			7		1	7	17
10~12	5		4	4	2	1	5	21
07.01~03	5	1	2	7	8	3	7	33
合計	13	1	6	25	13	5	21	84

(3) CHW の知識、技術向上

CHW 養成セミナーを終了し、現在村落で活動中の CHW を対象としたアドバンスコースを3ヶ月に1度の頻度で実施した。本年度は、特に母子保健に重点をおいた。また、CHW の活動について CHW 自身による評価を実施し、活動の現状について意見交換をした。意見交換には村落の代表者（セフィ）も参加し、CHW の活動への理解と協力を得ることができた。

(4) CHW の育成

第6グループ 8か村（Nanacuro, Omukano, Soro lua, Foema, Soro moko, Luturula, Leuro, Carano）を対象に、新規 CHW 養成のためのセミナーを11月から開催した。23名の CHW が新たに誕生した。セミナー終了後、村落におけるセミナーを積極的に実施した。

表3 第6グループ CHW 養成セミナー一覧 2005年11月から2006年10月まで

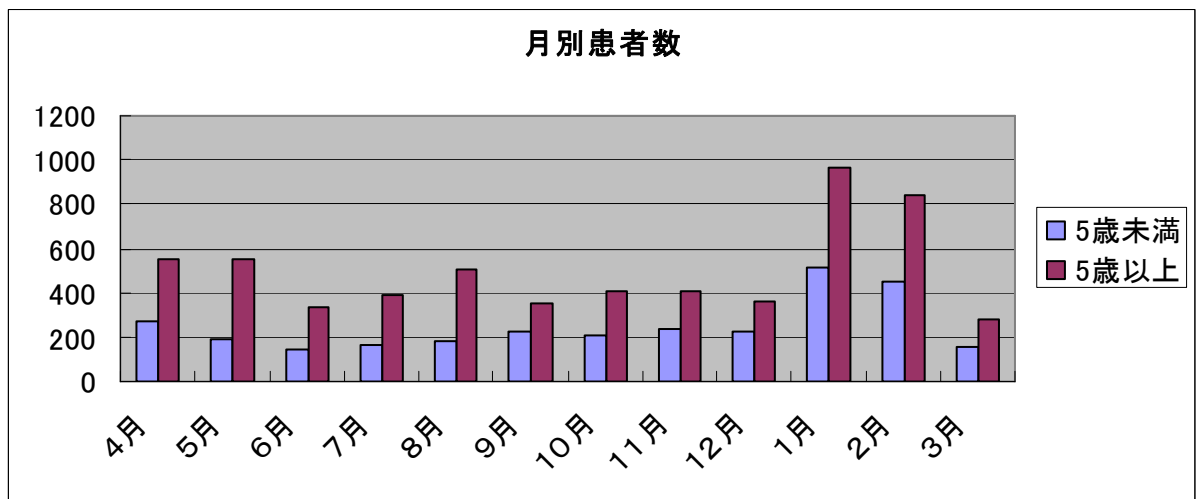
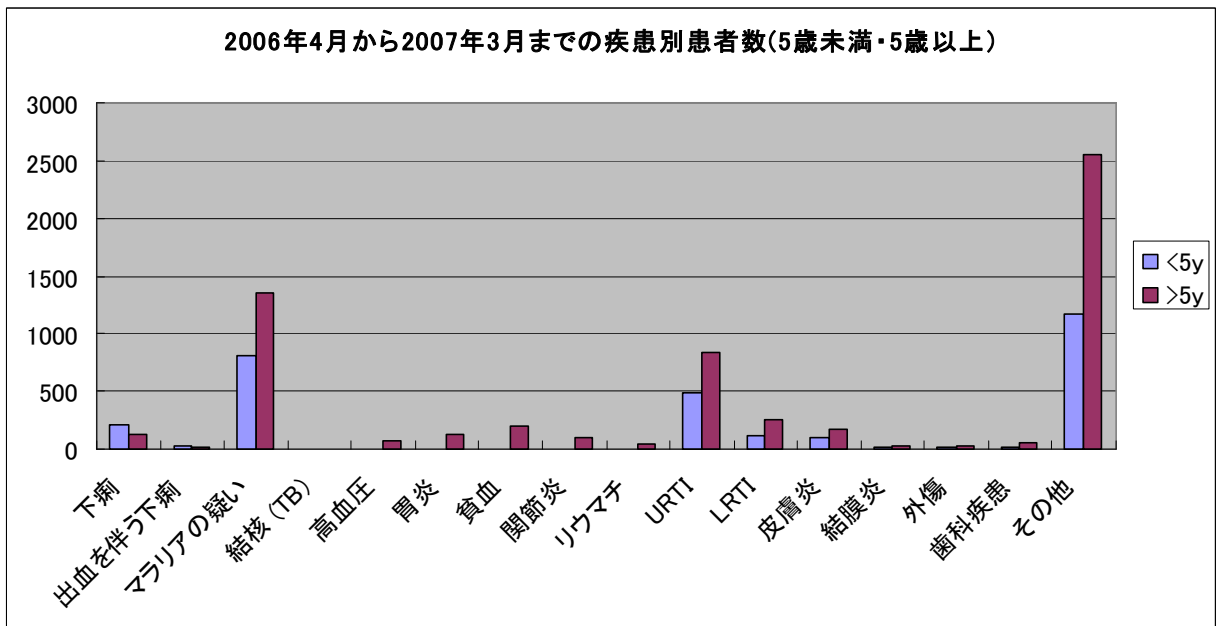
年月	セミナー内容	参加人数
2005.11	AFMET 目標/PHC/健康と疾患/マラリア/栄養と栄養不良	50
12	解剖・生理/バイタルサイン/下痢/腸管寄生虫	42
2006.1	呼吸機能/肺炎/咳/気管支炎/ハンセン氏病/扁桃炎	42
2	結核/HIV-AIDS/デング熱/血管の合併症	46
3	皮膚疾患/眼疾患/耳鼻科疾患/はしか/水痘/歯科疾患	38
4	消化機能/骨折	40
5	母子保健 I	41
6	カレンダーシステム/外傷	44
7	コミュニケーション/人間関係/環境公衆衛生学	42
8	スタディーツアー	23
	母子保健 II	19
9	ヘルスプロモーション/実習セミナー	22
10	卒業式	

(5) クリニック業務の継続と充実

クリニック業務を月・火・金曜日午前 8:00 から 11:00 まで実施した。

症状別、月別の患者数は以下のとおり。





また、薬草を使用した軟膏をつくり、クリニックでの処方を開始した。

(6) クリニックでのセミナーの開催

毎月第1月曜日にクリニックにおいて、セミナーを開催した。特にクリニックのデータから疾患を選び、薬草を使った処方なども紹介した。また、MOH から配布された保健に関するポスターの説明なども行った。

(7) ポリオキャンペーン参加

ラウテン県保健局 (DHS) 主催のポリオキャンペーンに参加し、毎月定期的に AFMET リフレラルセンターにて投薬を実施した。

(8) メディカルスタッフの知識、技術向上

聖心侍女修道会による薬草のトレーニングを AFMET で実施。14種類もの疾患に効く薬草の育て方、処方、留意点の実践演習を行った。修道会のあるサメ地方から薬草の苗を分けても

らい、AFMETの敷地内に薬草畑を再整備することができた。

(9) 東ティモール保健省主催のプログラムに協力参加

2006年12月に国の健康と保健に関するガイドライン(FHPP=Family Health Promoter Program)が発表された。また、パイロットプランが実施され、AFMETのスタッフであるアリス氏が指導員(National Trainer)として起用された。

(10) 他団体によるセミナーに参加

国際NGOのCONCERN主催によるPRAセミナーにAFMETスタッフが参加。

国際協力機構(JICA)主催によるプレゼンテーションセミナーにAFMETスタッフが参加。

(11) 他部門との関係強化

東ティモール保健省(MOH=Ministry of Health)、県保健局(DHS=District Health Service)を訪問した。FHPPへの協力参加のため、MOHを月に一度訪問し、PHCに関する情報交換を行った。また、DHSに週に1度訪問し、関係強化を図るとともに、看護師のAFMETへの斡旋を依頼した。

### 3. 調査活動

(1) カンボジア 2006年7月、8月、2007年2月、3月

JLMMカンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動並びにコンポンルアンでの活動の視察、調整をスタディーツアーと兼ねて行った。

(2) タイ 2006年8月

チェンマイDISACを訪れ、現地での活動状況視察をスタディーツアーとともに行った。

(3) 東ティモール 2006年10月

現地AFMETを訪れ、事業の運営についての調整などを行った。

(4) フィリピン 2006年5月

FONDACIOアジア青年センター(フィリピン・マニラ)開所式に出席するとともに、Pastoral Formation Training on MissionにResource Personとして出席。

### 4. 研修

信徒宣教者派遣候補者として重富浩子(大阪教区・玉造教会)、松本和歌子(福岡教区・水俣教会)、高橋まり子(さいたま教区・桐生教会)の3名の研修を2006年4月11日から10月27日まで行った。高橋まり子は、本人の希望により研修終了後、派遣を辞退した。

今年度もコングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院内にある友愛の家に研修所をおき、研修を行った。

今年度の研修は昨年に引き続き、日本女子修道女総長管区長会「生涯養成コース」(増田神父:キリスト論、諸宗教の神学)、(鈴木隆氏:信徒の時代を生きる)に参加し外部の研修を活用した。また、「英語」にSr.Elizabeth Kato(メリノール会)、「福音書と宣教」にムケンゲシャイ・マタタ神父(淳心会)、「自分に出会う」にSr.太田喜子(マリアの宣教者フランシスコ修道会)、「教会史」に大盛志帆氏、「教会と社会問題」にSr.伊従直子(メルセス会)、「派遣」にマリオ山野内倫昭神父(サ

レジオ会)と柴田香代子(コングレガシオン・ド・ノートルダム)、「識別と祈り」に Sr.田邊董(聖心会)、「聖書深読」に有光信子氏を招くとともに、事務局長による「国際理解・人間開発・教会の課題」についての研修を行い、社会問題から自分自身への気付きなど、派遣後求められる知識や経験が積める研修内容とした。

さらに体験学習では、荒川体験、川崎体験とともに、静岡市にある「ラルシュ・かなの家」にて知的ハンディを持つ人たち(仲間)と共に生活しながら、作業や関わりの中で「共に生きる」ことの大切さを学ぶ体験学習を行った。また、昨年に引き続き長期海外研修は、現在 JLMM が派遣している国(カンボジア・タイ)に長期滞在し、その国の人々、文化に触れ、また現派遣者と共に活動に参加する中で、自分を見つめ、ミSSIONナリーとして派遣されるための見極め、また準備期間とした。

オリエンテーション	2006年4月11日～12日
通常授業	2006年4月17日～10月19日
荒川体験	2006年4月28日
川崎体験(在日外国人問題、労働者問題)	2006年5月15日～20日
かなの家体験(「共に生きる」ことの体験、農業体験)	2006年6月5日～10日
中間黙想	2006年7月3日～6日
長期海外研修(タイ・カンボジア)	2006年7月26日～8月26日
最終黙想	2006年10月30日～11月2日
派遣式	2006年11月11日

また、将来派遣地において教会や他の NGO などと連携し活動する経験につなげることや、日本での人とのネットワークを深め支援者を増やすことなどから、例年どおりアポストラートをを行った。受け入れ先は次のとおりである。

- カトリック菊名教会(高橋)
- カトリック保土ヶ谷教会(松本)
- 女性の家 サーラー(重富)
- カラカサン(重富)
- 山友会(松本)
- シーメンズクラブ(高橋)

中間、最終黙想の指導及び会場は以下のとおり

- 中間黙想 指導者：マヌエル・アモロス神父(イエズス会)  
会場：霊性センター せせらぎ(東京都練馬区上石神井)
- 最終黙想 指導者：オリビエ・シェガレ神父(パリ外国宣教会)  
会場：イエズス会黙想の家(神奈川県鎌倉市十二所)

## 5. 派遣

研修を終了した2名の信徒宣教者の派遣を行った。

また、所属教会において派遣式を行った。

派遣者

重富 浩子（大阪区玉造教会） カンボジア 2006年12月17日派遣

松本 和歌子（福岡教区水俣教会） タイ 2007年3月20日派遣

派遣式

2006年11月11日（土） コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院  
小教区での派遣式

2006年12月17日（日） カトリック水俣教会

## 6. 派遣候補者の選考

2007年度派遣に向けた派遣候補者を2005年8月から募集を開始、さらに2次募集を11月20日まで行ったが、1名のみの応募だったことから試験実施を中止した。このため、2007年度の研修を1年休止とした。

## 7. 帰国黙想会

1999年以来実施しなかった、派遣を終え帰国した派遣者を対象とした黙想会を実施した。

期日：2006年8月11日（金）～13日（日）

会場：聖母訪問会 モンタナ修道院（神奈川県鎌倉市津）

参加人数：7名

黙想指導：Sr.大野恵子（聖母訪問会）

## 8. 広報

(1) ミッション（ニュースレター）発行 他

ミッションNo.100～105 計6号を以下のとおり発行した。

No.	発行日	部数	内容
No.111	2006年5月25日	3,000部	<ul style="list-style-type: none"><li>・2006年度新派遣候補者のご挨拶</li><li>・カンボジアからの手紙</li><li>・2006年スタディーツアーのご案内</li><li>・東ティモールからの手紙</li><li>・コンポルアン緊急支援のご報告</li><li>・新運営委員長のご挨拶</li><li>・2006年度運営委員等の紹介</li></ul>
No.112	2006年8月25日	3,700部	<ul style="list-style-type: none"><li>・東ティモール情勢</li><li>・東ティモールからの手紙</li><li>・2005年度活動報告</li><li>・2005年度会計報告</li></ul>

No.113	2006年10月27日	3,000部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ発 “ラフの子ども達に会いに行く”</li> <li>・カンボジアからの手紙</li> <li>・スタディーツアーに参加して</li> <li>・東ティモール再派遣</li> <li>・長期海外研修報告会実施</li> <li>・2007年度派遣候補者募集のお知らせ</li> <li>・2006年度派遣式のご案内</li> </ul>
No.114	2006年11月29日	3,100部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集 2006年度派遣式</li> <li>・東ティモール便り</li> <li>・カンボジアからの手紙</li> <li>・クリスマス献金のお願い</li> </ul>
No.115	2007年1月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JLMM 創立 25周年を迎えて 記念ミサと式典のご案内</li> <li>・カンボジア便り</li> <li>・サワッディー・チャーオ！ タイからの手紙</li> </ul>
No.116	2007年3月28日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JLMM 創立 25周年記念式典開催のご報告</li> <li>・JLMM25周年からの出発</li> <li>・25周年記念式典に参加して</li> <li>・コンボンルアン水上村教会 改築寄付金のお礼とその後</li> <li>・東ティモール便り</li> </ul>

(2) 広告掲載等

カトリック新聞 月1回年15回広告掲載。( )は掲載サイズ

- 2006年4月16日 イースター募金 (通常/2段5cm)
- 2006年4月23日 イースター募金 (通常)
- 2006年5月21日 「つながりが世界を変える」活動支援願い (通常)
- 2006年6月25日 スタディーツアータイ・カンボジア参加募集 (通常)
- 2006年7月2日 スタディーツアータイ・カンボジア参加募集 (通常)
- 2006年7月9日 スタディーツアータイ・カンボジア参加募集 (通常)
- 2006年8月6日 平和を求める心が世界を変える  
平和祈念募金願い (大/3段1/4)
- 2006年8月13日 平和を求める心が世界を変える  
平和祈念募金願い (大)
- 2006年9月17日 派遣候補者募集 (通常)
- 2006年9月24日 派遣候補者募集 (大)
- 2006年10月15日 派遣候補者募集 (通常)
- 2006年10月29日 派遣候補者募集 (大)
- 2006年11月5日 派遣候補者2次募集 (通常)
- 2006年12月10日 クリスマス献金 (通常)

2007年1月21日	派遣候補者2次募集（通常）
2007年2月18日	スタディーツアー参加募集（通常）
2007年3月18日	イースター募金（通常）
2007年3月25日	イースター募金（通常）

### （3）チラシ配布

JLMMの広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

平和祈念献金	20,000部作成（2006年7月）
クリスマス	20,000部作成（2006年11月）
イースター	20,000部作成（2007年3月）

### （4）新聞・雑誌記事掲載

2006年5月	福音宣教5月号 交わりの輪につどう
2006年6月1日	日本カトリック海外宣教者を支援する会「きずな」95号
2006年11月20日	カトリック新聞 派遣者紹介
2007年2月1日	聖母の騎士 日笠山万希子の活動報告
2007年2月11日	カトリック新聞 25周年式典

### （5）JLMM 25年の歩み

創立25周年の記念し、年表や関係者、OBOGからのメッセージなどをまとめた記念誌「JLMM 25年の歩み」を発行した。

2007年2月3日	250部
-----------	------

## 9. 報告会・説明会

長期海外研修報告会	2006年9月16日（土）	調布研修所
カンボジア報告会	2006年6月4日（日）	カトリック藤沢教会
	2006年10月7日（土）	カトリック潮見教会
	2006年10月15日（日）	カトリック松本教会
	2006年10月21日（土）	カトリック大阪大司教区司教館
	2006年10月22日（日）	カトリック吹田教会
	2007年1月21日（日）	カトリック藤沢教会
タイ報告会	2006年9月17日（日）	カトリック健軍教会
スタディーツアー	2006年9月17日（日）	カトリック荻窪教会
その他	2006年4月23日（日）	六本木チャペルセンター
	2006年11月18日（土）	カトリック茅ヶ崎教会
	2007年2月11日（日）	栄光学園臨海教室海の家 NWM

## 10. バザー・イベント等への参加

小教区等で行なわれているバザーなどに出展した。

2006年4月23日(日)	カトリック雪ノ下教会 福祉バザー
2006年5月14日(日)	インターナショナルデー(カトリック関口教会)
2006年9月16日(土)	聖心大学 宮代祭
2006年9月30日(土)・10月1日(日)	グローバル・フェスタ(日比谷公園)
2006年10月15日(日)	ほっとけない世界の貧しさ主催 STAND UP! 貧困削減に向けて立ち上ろうーギネス世界記録への挑戦
2006年10月15日(日)	カトリック立川教会 バザー
2006年10月21日(土)・22日(日)	カトリック山手教会 バザー
2006年10月22日(日)	カトリック大船教会 バザー
2006年10月22日(日)	カトリック藤沢教会 バザー
2006年10月29日(日)	カトリック雪ノ下教会 バザー
2006年10月29日(日)	カトリック調布教会 バザー
2006年11月5日(日)	カトリック横須賀三笠教会 バザー
2006年11月12日(日)	カトリック保土ヶ谷教会 バザー

## 11. スタディーツアー

外部の依頼、会員や一般参加者に向けスタディーツアーの企画を行った。

(1) 日本女子修道女総長管区長会「生涯養成コース」カンボジア体験ツアー

2006年6月9日(金) 事前説明会

2006年7月15日(土)～7月24日(月) 参加者11名

行程: プノンペン→コンポントリアン→シェムリアップ

(2) ニコラ・バレグループ カンボジアスタディーツアー

2006年8月7日(月)～8月14日(月) 参加者12名

行程: プノンペン→シェムリアップ

(3) JLMM タイ&カンボジア 2006夏のスタディーツアー

2006年8月21日(月)～8月31日(木) 参加者6名

行程: チェンマイ→プノンペン→コンポントリアン→シェムリアップ

(4) 専修大学 SIA カンボジア&タイ スタディーツアー

2007年2月7日(水)～2月24日(土) 参加者14名

行程: プノンペン→コンポントリアン→シェムリアップ→バンコク→メーソット

(5) 近畿日本ツーリスト主催 中・高校生対象 カンボジアスタディーツアー

2007年3月11日(日) 事前説明会

2007年3月25日(日)～3月31日(土) 参加者2名

行程: プノンペン→タケオ→シェムリアップ

## 12. 25周年記念式典

JLMM 創立 25 周年を記念し、2007 年 2 月 3 日（土）、東京・六本木フランシスカン・チャペルセンターに於いて「JLMM 創立 25 周年記念式典」を開催した。

記念ミサは、顧問司教である池長大阪大司教区長と 9 名の司祭団による共同司式により行われ、ミサの中では、集会祈願の前に現派遣者や OBOG から募った「共に生きた」分かち合いを披露、「つらかった時、一緒に泣いてくれた」、「仲たがいたけど仲直りした。そして前より信頼しあうようになった」「一匹の魚を沢山の村人と分け合った。まるでミサのようだった」などの 25 年間の派遣者による生きた「分かち合い」の場となり、ミサでの祈りにつながった。

ミサ後の式典では、運営委員長並びに長年当会の活動に関わってくださっている聖母訪問会・Sr. 諏訪清子さんがロシアから当式典のために帰国してくださり、ご祝辞をいただいた。また、JLMM 創立者のマイケル・シーゲル師のあいさつもあり、JLMM 設立の経緯をご紹介いただいた。

その後、歴代の活動写真や、OBOG、現地パートナーや研修スタッフなどのインタビューを交えた「映像で綴る 25 年の歩み」を上映し、25 年を振り返るとともに、今後未来に向けての想いを新たにした。

最後に、2006 年 8 月より記念式典のために結成されたゴスペルクワイヤーによるコンサートが行われた。このゴスペルクワイヤーでは、OBOG や JLMM 関係者、スタディーツアー参加者やその友人、呼びかけに応じて参加して下さった方など、総勢 50 名が参加者し、ゴスペルを通して人との関わりの輪を広げることができた。

題名：「JLMM 創立 25 周年記念式典」

主催：日本カトリック信徒宣教者会

期日：2007 年 2 月 3 日（土）

会場：六本木フランシスカン・チャペルセンター

内容：記念ミサ、式典、ゴスペルコンサート

参加者：250 名

## 13. 会議

### (1) 運営委員会

開催回	開催日	会場	議 題
第 1 回	2006 年 4 月 17 日	フランシスコ 会ヨゼフ修道 院	<ul style="list-style-type: none"><li>・正副運営委員長の選任について</li><li>・竹内前運営委員長の名誉運営委員長（顧問）への就任について</li><li>・役員の選任について</li><li>・各国・国内活動状況について</li><li>・2006 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について</li><li>・その他（創立 25 周年記念行事等について）</li></ul>



第2回	2006年 6月12日	フランシスコ 会ヨゼフ修道 院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国活動状況について（山手雅子任期短縮について）</li> <li>・2005年度活動報告（案）及び収支決算（案）について</li> <li>・J LMM創立25周年記念行事等について</li> <li>・海外長期研修について</li> <li>・2007年度候補者募集について</li> <li>・その他（指導司祭について）</li> </ul>
第3回	2006年 9月19日	フランシスコ 会ヨゼフ修道 院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・J LMMの現状と課題、今後の方向について</li> <li>・2006年度派遣先について</li> <li>・派遣に関する基本契約書の改定について</li> <li>・小林誠運営委員の海外赴任について</li> <li>・その他</li> </ul>
第4回	2006年 12月11日	フランシスコ 会ヨゼフ修道 院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国・国内活動状況について</li> <li>・指導司祭について－レイモンド神父紹介</li> <li>・2006年度派遣者について</li> <li>・国内活動を希望する信徒宣教者について</li> <li>・2007年度派遣候補者募集について</li> <li>・名称・用語検討委員会の設置について</li> <li>・その他</li> </ul>
第5回	2007年 3月12日	フランシスコ 会ヨゼフ修道 院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国活動状況について</li> <li>・2007年度事業計画（案）並びに収支予算書（案）について</li> <li>・2007年度派遣候補者面接と派遣前研修の取りやめについて</li> <li>・運営委員について</li> <li>・その他</li> </ul>

## (2) 広報委員会

昨年度に引き続き広報委員会を4回開催し、会の広報の展開等について審議した。

委員：緒方氏、西垣氏、川越氏、小山氏 順不同

会議の開催日と会場、議題：

開催回	開催日	会場	議 題
第1回	2006年 4月25日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イースターチラシについて</li> <li>・広報について</li> <li>・ホームページについて</li> <li>・その他</li> </ul>

第2回	2006年 6月7日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャリティーイベントについて</li> <li>・ホームページについて</li> <li>・平和祈念チラシについて</li> <li>・その他</li> </ul>
第3回	2006年 9月14日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページリニューアルについて</li> <li>・平和祈念チラシについて</li> <li>・25周年記念式典のチラシ配布について</li> <li>・その他</li> </ul>
第4回	2006年 10月24日	聖パウロ女子 修道会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページリニューアルについて</li> <li>・クリスマス献金について</li> <li>・25周年記念式典の周知について</li> <li>・その他</li> </ul>

# 収支計算書

自2006年4月1日 至2007年3月31日

NO. 1  
(単位:円)

収入の部

科 目 名		06年度予算A	06年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考
収入の部	会費収入	2,500,000	2,241,000	△ 259,000	89.6%	フェリシモ基金
	寄付金収入	20,000,000	25,891,049	5,891,049	129.5%	
	補助金助成金収入	0	905,580	905,580		
	受取利息	1,000	794	△ 206	79.4%	
	雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計 (A)		22,511,000	29,038,423	6,527,423	129.0%
前年度繰越金 (B)		1,000,000	1,583,896	583,896	158.4%	
収入合計 (C)=(A)+(B)		23,511,000	30,622,319	7,111,319	130.2%	

支出の部

科 目 名		06年度予算A	06年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備 考			
支 出 の 部	運 賃	1. 人件費 (D)	7,932,000	7,662,706	△ 269,294	96.6%			
		給料手当	6,144,000	6,144,000	0	100.0%	2名分		
	通勤手当	588,000	587,760	△ 240	100.0%				
	退職金	0	0	0					
	法定福利費	1,186,000	912,606	△ 273,394	76.9%				
	福利厚生費	14,000	18,340	4,340	131.0%	健康診断			
	営 費	事 務 管 理 費	2. 事務運営費 (E)	1,824,000	1,762,990	△ 61,010	96.7%		
			会議会場費	25,000	25,000	0	100.0%	運営委員会	
			会議食事代	10,000	0	△ 10,000	0.0%		
			会議旅費交通費	30,000	0	△ 30,000	0.0%		
			電話料	530,000	456,162	△ 73,838	86.1%		
			郵便切手送料	180,000	108,790	△ 71,210	60.4%		
			印刷コピー代	60,000	141,011	81,011	235.0%		
			備品費	0	0	0			
			旅費交通費	50,000	0	△ 50,000	0.0%		
			消耗品費	100,000	63,155	△ 36,845	63.2%		
			リース料	729,000	728,520	△ 480	99.9%		
			支払手数料	0	173,352	173,352			振替手数料等
			諸会費	10,000	10,000	0	100.0%		司教協議会公認団体
			水道光熱費	70,000	57,000	△ 13,000	81.4%		
	維持管理費	10,000	0	△ 10,000	0.0%				
	慶弔費	20,000	0	△ 20,000	0.0%				
	運営費支出合計 (F)=(D)+(E)		9,756,000	9,425,696	△ 330,304	96.6%			
	活 動 費	活 動 費	研修費	2,042,000	1,943,319	△ 98,681	95.2%	職員1名分含む	
			派遣活動費	5,630,000	9,436,199	3,806,199	167.6%		
			調査研究費	3,328,000	2,879,573	△ 448,427	86.5%		
広報活動費			1,870,000	2,825,692	955,692	151.1%			
行事費			405,000	348,309	△ 56,691	86.0%	25周年記念式典		
活動費支出合計 (G)		13,275,000	17,433,092	4,158,092	131.3%				
運営費活動費計 (H)=(F)+(G)		23,031,000	26,858,788	3,827,788	116.6%				
固定資産除却		0	0	0					
財務支出合計 (I)		0	0	0					
当年度支出合計 (J)=(H)+(I)		23,031,000	26,858,788	3,827,788	116.6%				
当期収支差額 (K)=(A)-(J)		△ 520,000	2,179,635	2,699,635	-419.2%				
次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J)		480,000	3,763,531	3,283,531	784.1%				

## 貸借対照表

日本カトリック信徒宣教者会

2007年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
預金	3,977,675	
前払費用	553	
流動資産合計		3,978,228
2 固定資産		
什器備品	26,177	
電話加入権	74,984	
固定資産合計		101,161
資産の部合計		4,079,389
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	72,293	
預り金	142,404	
流動負債合計		214,697
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	1,703,111	
当期正味財産増加額	2,161,581	
正味財産合計		3,864,692
負債及び正味財産合計		4,079,389

# 財 産 目 録

2007年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預 金			
三菱東京UFJ銀行			
六本木支店 普通	2,175,253		
六本木支店 普通	1,048,713		
六本木支店 定期	20,002		
郵便振替口座	733,707		
前払費用			
労働保険料	553		
流動資産合計		3,978,228	
2 固定資産			
有形固定資産			
什器備品			
パソコン2台	26,177		
無形固定資産			
電話加入権			
03-5414-0991	74,984		
固定資産合計		101,161	
資産合計			4,079,389
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
社会保険料	72,293		
預り金			
社会保険料	142,404		
流動負債合計		214,697	
負債合計			214,697
正味財産			3,864,692

## 正味財産増減計算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 増加の部 当期収支差額 増加額合計	2,179,635	2,179,635	2,179,635
II 減少の部 1 資産増加額 減価償却額 減少額合計	18,054	18,054	18,054
当期正味財産増加額 当初正味財産額 期末正味財産合計額			2,161,581 1,703,111 3,864,692

## 計算書類に対する注記

### 1 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について  
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。
- (2) 資金の範囲について  
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
預 金	1,698,975	3,977,675
立替金	73,395	0
前払費用	0	553
合計	1,772,370	3,978,228
未払金	0	72,293
預り金	188,474	142,404
合計	188,474	214,697
次期繰越収支差額	1,583,896	3,763,531

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	前期末残高	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	523,530	44,231	△ 18,054	△ 497,353	26,177
合計	523,530	44,231	△ 18,054	△ 497,353	26,177

## 監査意見書

日本カトリック信徒宣教師会会則第13条第4項の規定に基づき、2006年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2007年5月8日

日本カトリック信徒宣教師会

監事 (財務)

徳 修 

2007年5月26日

日本カトリック信徒宣教師会

監事 (事業)

荒川 治 